

0.000116/1,380 km²の取り組み

佐藤義博（関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所）

当事務所で取り組んでいます市民活動について報告いたします。当事務所は平成13年1月6日に中央省庁等の再編により、2つの事務所が1つになり、新たに港湾空港に関する技術調査事務所となりました。できて4年目の事務所です。場所は横浜市神奈川区、JR東神奈川の駅から徒歩15分ぐらいのところにあります。

かつて日本鋼管浅野ドックというところがありまして、そこが撤去になり、今、新築のマンションがどんどん建っている、まさしく再開発されている場所に隣接して事務所があります。事務所から海側を見て、右側が再開発箇所、左側が京浜工業地帯になっています。

タイトルの116と1,380とは、116㎡は海水導入池の面積です。1,380km²は東京湾（三浦半島の観音崎と千葉県の洲崎を結んだ線より内側）の面積になっています。事務所にある海水導入池は東京湾に比べたら非常に小さな池ですよということを言っております。

海水導入池のある場所はかつて係船場だったところを改修していくという段階の中で、当事務所を東京湾の環境教育機能を備えた事務所にしていこうという発想から、いろいろ知恵を出し合い、市民の方の提案書もいただき、護岸背後を一部取ってしまおうということになり造成しました。

役所でこんなことをやるのは、ここの事務所が初めてだと聞いています。東京湾の環境を考える場として、この施設を多くの方々に利用してほしいという思いをこめ、関係者による鍬入れ式のあと、バックホーで土を取り除き池にしました。池は海との止水部分に少しすき間がありますので、海水が出入りしています。池の水位差は最大2メートルぐらいです。池は平成16年3月にでき上がって、現在に至っています。

海水導入池では、NPO 海辺づくり研究会ほか2団体の方々と基本的には月に1度の日曜日にモニタリング等を実施しています。

海水導入池を中心として、今現在、取り組んでいるのがNPOさんとの取り組みの他、近隣、特に神奈川区の市民の方々との連携です。

国道15号線という幹線、さらに鉄道路線として東海道本線や京浜急行があり、その背後に22万人ぐらいの区民が住んでいますが、国道15号線より海側というのはなかなか行けない場所だということを私は初めて聞きました。親も行ったことがないから、当然、子供も行ったことがないということで、まさしく海と疎遠になっ

ているというところを初めて聞いて、びっくりしたところでした。

そういうこともありまして、様々な方々にご尽力いただきまして、この夏から毎月、月に1回の割合で、横浜市内の小学生の方が1回当たり40名ぐらいで事務所に来所していただけるようになり、自然体験活動に取り組んでいるところです。

池以外の施設として、多目的ホールの1階に50名ぐらい入れる部屋があります。海水導入池の横には風力発電（1.3kWの能力）のための風力発電装置、実験センターには長さ10メートルの幅2メートルで横浜港からの水を循環している水槽などがあります。

岸壁の前面一部に砂を撒き、アマモ場の造成を行っています。また、来所した小学4年生以上の方を対象として、ヘドロや台風等により流れてきたごみを見てもらったりして、それを環境実習ネタに使用しています。アマモ場にはカメラを入れて、魚が遊泳する姿を見てもらっています。さらに市民活動、NPOさんの活動も含めて、我々も今、東京湾をきれいにしていく事業をやっていますという広報、事務所の前でとれた真っ黒なアサリを使った浄化実験、アサリが砂の中に足を使って潜るところの観察だとか、そういうことを学習会の中で見てもらっています。

東京湾の環境は、今日、明日では、きれいにならないので、とにかく長い時間が必要となります。このため子供たちに自分たちの目で事務所前の海の現実をいろいろ見てもらって、最後は自分たちができることを学校や家庭で考えてくださいという活動しています。

横浜市が出している本によりますと、横浜港には、240種類ぐらいの生き物がいるということです。当事務所前面の海辺で採取された生き物は70種類ぐらいで、ヒラメからスズキから多種多様の生き物が観察されています。観察された生き物のうちウシエビ、クロホシマンジュウダイは熱帯性の生物で横浜港では非常に珍しいことから、プレス発表をしました。

【ポイント】掘った海水導入池は珍しい事例ですが、掘った土は一応、風力発電のところに築山として置いてありますので、実験が終われば戻せるという理屈のもとでやっております。

【ポイント】池では15種類ぐらいの生き物が発見されました。現在、ボラやドロメなど生息しています。

0.000116/1,380 km²の取り組み

Hands-on Activates with 0.000116/1,380 km²



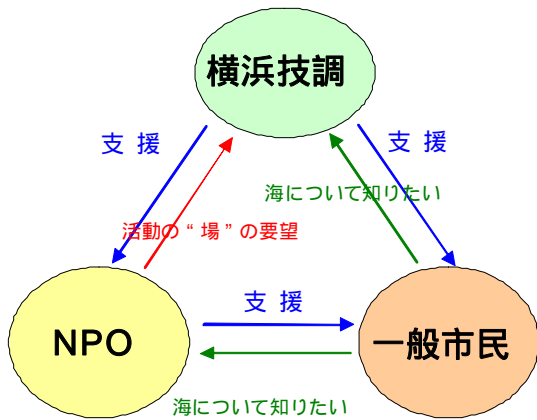
多目的ホール:総合的な学習の授業



本庁舎



実験センター
よこはまの川と緑を考えるこども会議



アマモ播種準備作業



海水導入池



カキの飼育実験(カキの大きさ計測)



造成したアマモ場とウミタナゴ

活動の目指すもの

横浜港湾空港技術調査事務所では、東京湾の良好な自然環境の保全・再生・創出を目的に、NPO・市民団体等と協働し、「港湾行政の環境施策に対する市民への理解促進、環境意識の向上」、「一般市民・NPO等とのパートナーシップの構築」に取り組んでいます。

活動内容は、当事務所構内に整備された環境施設とその周辺海域において、海辺の動植物のモニタリングを実施しています。構内に整備された海水導入池の規模は、約116m²(0.000116 km²)であり、1,380km²の東京湾の環境改善に向けた啓発活動を展開する場として、多目的ホールとともに活用されています。また、海の環境に関するシンポジウム・勉強会なども実施しています。

活動場所について

活動は当事務所の構内(神奈川県横浜市神奈川区)で実施しています。事務所構内には、自然の状態で水位の変動する海水導入池やアマモ場、タッチングプールなどの環境施設、また、シンポジウム・勉強会を行うことができる多目的ホールがあります。

活動期間、頻度について

本活動は平成16年度(2005年1月)から実施しており、現在は月に一度、NPO・市民団体と海棲生物等のモニタリングを行っています。その他、本活動の団体や小学校等との意見交換、勉強・観察会を実施しています。

関係者について

平成16年度に自然体験活動の企画案を一般公募し、採用された
 ・海辺つくり研究会(NPO)
 ・磯遊び研究会(市民団体)
 ・横浜市教育文化研究所(財団法人)
 の方々と共に活動をしています。



国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所

(連絡先) 〒221-0053 神奈川県横浜市神奈川区橋本町2-1-4 TEL 045-461-3896 FAX 045-461-3899
 (インターネット) <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/yokohamagicho/>

YOKOHAMA Research and Engineering Office for Port and Airport, MLIT

(Contact point) 2-1-4, Hashimoto-cho, Kanagawa-ku, Yokohama, 221-0053, Japan Phone +81-45-461-3869 Facsimile +81-45-461-3899
 (Web page) <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/yokohamagicho/>